

ふるさと文化の館情報

圃ふるさと文化の館 ☎ 72-2120

美術館

美術展「中村二夫 故郷の土を焼く」

■会期 5月5日(土)まで ※月曜日休館

9:00~17:00

■入場料 無料

小野町出身の陶芸家・中村二夫(つぎお)さんの作品展です。今回は小野町の土を使って製作した壺・花器などの作品を展示します。

小野町の「土」はどのような作品に姿を変えているのでしょうか。会場でご覧ください。

美術展会期中には作家も来館する予定ですので、皆さんでお誘い合わせのうえお出掛けください。



『飯椀』
中村二夫 作

■作家来館予定日

4月26日(火)、5月1日(土)、3日(火)~5日(土)

予定は変更になる場合があります。

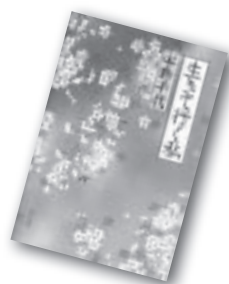
図書館

4月23日は
子ども読書の日です。

子ども読書の日は、子どもたちの読書活動推進に理解を深め子どもが積極的に読書を行う意欲を高めるために、平成13年に定められました。

また4月23日から5月12日はこどもの読書週間です。もともとは5月1日から14日でしたが、平成12年の「子ども読書年」を機会に、現在の期間に延長されました。

2011・第53回子どもの読書週間の標語は「友だち100冊つくるんだ」。楽しい本を見つけに、図書館に足を運んでみてください。



角川書店
『生きて行く私』
(角川書店/刊 宇野千代/著)

今回ご紹介するのは『生きて行く私』(角川書店/刊 宇野千代/著)です。宇野千代は明治30年、山口県の岩国に生まれ平成8年98歳で天寿を全うしました。千代は生前「私、なんだか死なないうような気がするんですよ」と語っており、その生きる力は見事なものでした。本書は宇野千代の自叙伝で、千代の奔放とも言われる人生や、彼女に大きな影響を与えた尾崎士郎、東郷青児、北原武夫といったそうそうたる文人たちとの関係、きものデザイナーとしての実業家・宇野千代の素顔などを綴っています。

読み進むにつれ千代の生き方が鮮やかに浮かび上がり「生きる」ことの素晴らしさが伝わってきます。何かに悩んだ時、考え込んでしまった時、ぜひ手に取ってほしい1冊です。

BOOKS

絵本『ラチとらいおん』(福音館書店/刊 マレーク・ペロニカ/作 とくながやすもと/訳)をご紹介します。主人公のラチは世界中でいちばん弱虫な男の子。泣いてばかりのラチの前に小さな赤いらいおんが現れます。ラチは強くなるようにらいおんと一緒に過ごします。そして、ラチは「らいおんがいつしよだから大丈夫」と今まで怖かったことができようになります。ラチはやがていじわるをしたのつぼにもむかっていくことができるようになります。でも、らいおんはいなくなってしまうのです…。

弱虫なラチが強くなっていくさまが読み手にも勇気を与えてくれる、子どもにも大人にも読んでもらいたい絵本です。



『ラチとらいおん』
(福音館書店/刊
マレーク・ペロニカ/作)